
銀魂 闇へ

白龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀魂 闇へ

【Nコード】

N6190M

【作者名】

白龍

【あらすじ】

いつもの万事屋。このままなにも無いと思っていた。しかし、急にやってきた真選組の3人。やってきた理由は……

設定です（前書き）

友達にどういふのでいった方がいい？

と聞いたら先生生存ネタと即答されて決めました。

シリアスでがんばっていくので

応援よろしくおねがいします。

設定です

設定とプロローグみたいなものです。

設定は松陽先生生存ネタ的なものに

してみようかと思っています

大まかな内容はこんな感じです

高杉が江戸に来る

桂と高杉が密談する

真選組が動く

銀時がいなくなる

銀時が攘夷派に戻る

）

松陽先生を救出！！

という感じで追加したりしますけど

設定は松陽先生生存ネタでいきます。

キャラクター

攘夷派

坂田 銀時 桂 小太郎

高杉 晋助 坂本 辰馬

幕府派（？）

真選組

近藤 勲 土方 十四郎

沖田 総悟 山崎 退

その他

神楽 志村 新八

設定です（後書き）

もう少ししっかり書けたらいいなと

思いました。

作文！！？

そーいや今日キャラクターブック3と

銀魂35巻の発売日でした。

さっそくうちも買いましたー！ー¥（＾－＾）／

いつもの万事屋（前編）（前書き）

初めての連載小説です。あと、一応投稿は3日〜5日の間にしようと思います。

遅すぎても1週間以内に出そうと思います。
駄目文ですがよろしく願いします。

いつもの万事屋（前編）

神楽

「銀ちゃん、腹減ったヨーご飯くれヨー」

銀時

「さっき食ったろー酢昆布買ってやんねーぞ」

いつもの万事屋、しかしこの後大変な事が起こるのを

知る由もない

「そっいや 新八^{メガネ}は？」

神楽

「買い物に行ったアルよ」

酢昆布を食いながらしゃべる。

銀時

「あつそ……」

ソファーでジャンプを読む銀さん。

ピンポン チャイムが鳴る。

「おい、神楽いけ300円やるから」

「いやアル。銀ちゃんがいくネ依頼かもしれないアル」

一向に引かない二人。

しょうがなく銀ちゃんが行くはめに……

ガラガラ……ピシャツ。

目の前にはゴリラとサドとマヨがいた……

「おい、万事屋あけろ」

「開けなければ打ちますぜい」ガチャとバズーカをセットする沖田。

さすがにバズーカはとしぶしぶドアを開けた

いつもの万事屋（前編）（後書き）

読んでくれてありがとうございます。

これからがんばりますのでよろしくお願いします。

いつもの万事屋（後編）（前書き）

どーも二話目が出来て軽く調子ついてしまっている
白龍です。何かもうゴジヤゴジヤ何で
わかるようにプロローグとか書くんで少し更新が遅れます。
マジすいませーん

いつもの万事屋（後編）

ガラガラ

「よう、万事屋。」

「旦那〜いたんですかい」

？
開けると土方と沖田がいた。しかし誰かいない・・・ような・・・

（あれ・・・ゴリラ・・・いなくね・・・）

「ああ、近藤さんならあそこでさあ」

沖田は、道路の真ん中にあるゴリラの死体を指差した。

奥を見ると新八の姉”妙”が歩いていた。

どうやら、察しの通り殺つたらしい・・・

〜万事屋内〜

「で、何の様ですかコノヤロー」

「あ、そうだったな・・・実はな・・・」

内容はこうだった

最近ある攘夷党が活発で隊士がほとんど出ている事。
そして、その間の屯所の警備&雑用だった。 雑用はないだろ・・・

「つま、そういうことだ。」

「おいおい、雑用はねーだろ」

「まーそういうことなんでい」

「明日からだからよろしくな」

素晴らしい二人＋一匹は帰っていった。

いつもの万事屋（後編）（後書き）

・・・多すぎー！！！！

ツハしつれいしましたー

（スライディング土下座ー」

一週間前の真選組では・・・（前書き）

やっとの投稿です。

最近 部活&塾 のためパソコンをつける暇も無く

投稿できなくてすいませんでした。

一週間前の真選組では・・・

＊＊一週間前の真選組屯所＊＊

「ふくちよおおおおお！！」

朝っぱらからうるさいジミー（山崎）の声

「何事だあ！」

マヨラーの声もうるさい・・・

「攘夷浪士の中でも最も過激で最も危険な男、高杉晋助、
が江戸に入ったという情報が・・・」

「何だと・・・・・・・・・・。」

高杉晋助・・・祭り好きで、派手で大規模なテロ行為による破壊を好む。穏健派の桂小太郎より幕府から危険視されている。

「おい、総悟。最近將軍様が出てくる様な祭りはあるか？」

「いや、無いと思いますぜい　土方死ね　ボソ」

「そおおーおおーー」

「ぜいぜいぜい・・・」 沖田を追っかけ回してた。

「大丈夫ですかい。土方さんもう俺に副長の座を譲った方がいいんじゃないですかい？ニヤリ」

「まだまだだ」

「トシ。んでどつするんだ？」

「警備を倍に増やすか？」

「でも、そうしたら屯所の警備はどうするんだ？」

う~~~~~ん

「そつだ、旦那はどうですかい？腕つつぷしは
土方さんより上ですしね。
現に一回負けてやすし・・・ニヤリ」

「あれは負けていない。剣が折れたただけだ。」

「トシ、わがままはいかんぞ。」

「そうですね。土方さん」

（くそ～～～総悟のヤロー）

「で、何日くらい頼むんだ？」

「.....」

「どうしやしょう・・・」

「大体一週間ほど頼めばいいんじゃないかねーか？」

「じゃあいつ誰が行きますかい？」

「ぜったい、俺は行かねー」

誰が万事屋へ頼みに行くかで一週間もかかり最終的には3人で行くことになってしまったのであった。

万事屋会議（前書き）

どうも久々です。

最近新しい長編書こうかなと思っています。

応援してください。

万事屋会議

「で、どうするんですか。依頼受けるんですか？」

（ナレーター 新八？）

ただ今万事屋では会議が行われている。

内容は誰が真選組（ゴリラとマヨとサドの所）へ行くかアル。
あれ神楽ちゃん？

もちろん普通にすぐに決まらない。

銀さんは

「新八、お前が行け」

ですし……神楽ちゃんは……

「新八。おメエがいけヨ。雑用が。」

「というわけで話が進まないと・・・って僕雑用係!？」

「「そつだよ雑用。」」

「「うー――――」」

「で、銀さん行ってきたくださいよ。警備とか僕出来ないですよ・・・」

「大丈夫だ。お前ならきつと上手くいくはずだ。」

「そんなに上手いきません。みんなで行きましょーよ。」

「しーがねーな、いちご牛乳で手を打ってやる」

荷物を持って屯所へ向かった。

男や

ちなみに行く途中でズラを被って不明な生き物を連れた長髪の

グラスンのまるで駄目なオッサン（マダオ）に出会い、
軽く神楽ちゃんが特にマダオをボコしていた。

万事屋会議（後書き）

は、実は明日はもう始業式なんですよ。

もうホント嫌です。学校自体が。

なんか3年Z組みみたいな教室だったらいいのになあと

本気で考えてしまいます。

まあ、おいといて次回は高杉ら辺ということできたら

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6190m/>

銀魂 闇へ

2010年10月9日03時24分発行